

『教職実践演習ポートフォリオ』とは

「ポートフォリオ」とは、もともとは書類や作品を入れるファイルという意味です。教育の分野では「自分が自発的に学びの伸びや変容を多面的多角的、かつ長期的に評価し、新たな学びに生かすために学習成果を集めたもの」という意味で使われています。

『教職実践演習ポートフォリオ』は、皆さんが入学から卒業までの授業および実習で経験する様々な学びの軌跡をつなぎながら保存・活用していくものです。

教員免許を取得しようとする皆さんは、「教職実践演習」のスクーリング授業を受けるまでの間に、各自『教職実践演習ポートフォリオ』を作成しなければなりません。

『教職実践演習ポートフォリオ』とは、皆さんが教職課程の授業の中で何を学んだかを振り返るとともに、今後どのような力を身につけていく必要があるかを確認する手がかりにするためのものです。

各自作成した『教職実践演習ポートフォリオ』は「教職実践演習」履修時まで大切に保管してください。

1. 教職実践演習とは

平成 20 年の教育職員免許法の改正に伴い、平成 22 年度入学生から「教職実践演習」が新設され必修化となりました。教職実践演習は、この科目を履修するまでの履修科目の状況を踏まえ、幼稚園教諭として最小限必要な資質能力が身についているか確認することを目的としています。皆さんには、自己の課題を自覚し、不足している資質能力を補う努力をすることが求められます。

教職実践演習の到達目標は、以下の通りです。

- ① 保育への使命感や責任感、高い倫理観、規範意識をもって、職責を果たすことができる。
- ② 保育専門職としての職責や義務の自覚に基づき、社会性や対人関係能力を身につけている。
- ③ 子どもへの理解を深め、学級経営の意識、指導力を身につけている。
- ④ 保育内容に関する知識や技能、保育を行う上での基本的な表現力を身につけている。

2. 『教職実践演習ポートフォリオ』で 自らの歩みの確認を！

教職実践演習では、教育現場での実習を振り返り、体験を通しての気づきやつまずき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。そのためには、実習の前後で「教職実践演習ポートフォリオ」を用いて確認していく必要があります。

保育科の実習の目的は、実践的指導力を育成することにあります。実習においては、授業で学んだ理論を実践し、実践を分析し、改善点を見つけ、また、工夫して実践します。このような理論と実践との往還による実習体験を通して、バランスのとれた実践力を身につけ、総合的な実践的指導力に高めていきます。

実習の事前段階では、ポートフォリオを用いて、自己の資質能力を確認します。また、実習で身につけたい力の内容と質について自己目標を明確にし、実習に臨むことが大切です。

実習の事後では、実習体験から自分の得意とすることへの気づきや自己課題を発見します。可否の判定だけでなく、実習録などから自らの実践を振り返って分析することで、これまでの課題解決や新たな課題発見につながります。皆さんが教育現場に出られた後も、常に自己課題と目標を明らかにし、課題解決の方策を探す学びのプロセスを経験していくことが必要です。